

地域と共に歩む 中規模市中病院

川崎病院は、1936年に株式会社川崎造船所（現在の川崎重工業株式会社）の企業立病院として開設されました。1950年には、医療法人に改組し独立。地域に開かれた病院になりました。現在は、急性期病院としての役割を果たすため「断らない救急」をモットーに24時間365日の救急医療体制を維持し、救急隊と連携。また、「地域医療支援病院」として、病病連携、病診連携に加え、訪問看護、介護施設などの医療・福祉関連施設との連携にも力を入れています。近年では、地域包括ケア病棟の設置、訪問診療を軸とした在宅医療にも取り組むなど、高齢化や単身世帯の増加といった地域の抱える課題に合わせて、必要とされる機能を強化し、地域と共に歩んでいます。



365日24時間対応

当院の循環器内科では、急性心筋梗塞や不安定狭心症など、一刻を争う急性期虚血性心疾患（急性冠症候群）に対しては、365日24時間体制で受け入れを行えるよう循環器内科医が待機しており、救急搬送後、必要があれば直ちに緊急心臓カテーテル治療を行うことができます。一方で、動脈硬化性疾患予防のための高血圧症・脂質異常症・糖尿病等の生活習慣病管理にも積極的に取り組んでいます。



心不全症例に対する心臓リハビリテーション

2020年から「心不全症例に対する心臓リハビリテーション」を本格的にスタートしました。昨今の高齢化を背景に、全国的に心不全患者が増加していますが、当院の主たる診療圏である神戸市兵庫区や長田区も例外ではありません。特に「慢性心不全の急性増悪」で入院を繰り返す症例も増加しています。そういった状況に対し、再発による再入院を回避するため、「心臓リハビリテーション指導士」の資格を持つ医師や理学療法士が中心となって、入院中から心臓リハビリテーションを行っていただける体制を整えています。2021年からは、外来通院中の心不全症例を対象とした「外来心臓リハビリテーション」もスタートしました。



診療実績	2020年度	2021年度	2022年度
冠動脈造影/CAG	214	196	214
冠動脈形成術/PCI	205	187	144
血管形成術/EVT	47	45	53
ペースメーカー植込術	32	38	35
心臓核医学検査	304	298	209
冠動脈CT	223	236	202
心臓超音波検査	2,561	2,647	2,698
カテーテルアブレーション	53	49	56



沿革

当院の循環器内科は、病院開設から40年が経過した1977年、CCU治療では日本の先駆けといわれる東京女子医科大学から循環器内科の専任医師を招聘し、「心臓病センター」を設置したことが始まりです。当時、CCUの設置は、神戸市内では中央市民病院に次いで2番目の早さでした。その後も地域住民のニーズに応え、高度で質の高い医療を提供すべく、高度医療機器を導入して「急性期医療」体制を充実させ、2003年には24時間緊急カテーテル検査ができる体制を整え、2007年には当時最新式の64列マルチスライスCTを導入し「冠動脈CT」の実施が可能になりました。その後、2013年に西館が新設された際には、救急外来・心臓カテーテル室・HCU・心臓血管病センターが西館3Fの同フロアに集約され、急性期から慢性期まで幅広い状態の患者さんに効率的に対応できる体制が整いました。